

東京研修

八月五日（水）25:00

午前中の新日鐵住金の見学では、実はいままで聞いた事の無い会社だったのだが、社員・OBの方々の話を聞いて、とても大きな会社なのだと思った。そのような会社の本社の見学を我々がするという事は簡単な事ではないと思う。

私達y1班とy3班合同のディスカッションでは、今、私達が頑張っていることが将来にどのように役立つと思うかについて話し合った。私は写真部の活動ではたいてい1人での活動であることから、将来1人で考え、決断する力を養えるのではないかという意見を出した。他の人は、運動部での基礎練習が我慢する力になる等、どれも共感する部分があり、参考になる意見であった。

午後の企業大学訪問では順天堂大学医学部心臓血管外科教授の天野篤先生を訪問した、数年前に天皇陛下の冠動脈バイパス術を執刀され、緊急手術を除くと手術の成功率は99.6%という素晴らしい先生である。私は今、大学は医学部医学科と理学部物理学科を考えている。医学部医学科を考えた理由は昔、体が弱く、よく病院に行っていて、お医者様に憧れを抱いていたからである。

先生に質問をして、特に興味を持ったことについて書いていく。

なぜ医者になろうと思ったのかという質問に対してはお医者様に憧れていた、また先生のお父様が心臓の病気を持っていたことから医療に興味を持ったからだそうだ。また、電車の運転手やスキー選手になりたいと思ったこともあるそうで、自分の中で無くなっていったり、増えていったりした考え方の中で、結果的に残ったのが医者になるということだったのだそうだ。自分も様々なものに興味をもって、様々な将来を模索していきたいと思う。

ここまで手術の成功率が高いのはなぜかという質問に対しては、手術をしたときに余った血管を使って手技の練習をしたり、手術の経験を多くしたりすることで、目の前のものが目に入ると、かつてに手が動くような感覚になるまでになることで失敗が少なくなるのだそうだ。何事も、練習を積み重ねることが大事であり、それは勉強にも言えることだと思った。

人の三倍の努力(先生の著書に書いてあった言葉である。)とはどういう意味かという質問に対しては、昔から手術後、気になる患者さんに対しては、1日3回の回診をしているのだそうだ。1、2回目は定期的な回診で、3回目は、自分自身がその患者さんの様子で気になっているところを見るのだそうだ。その時に、「俺も、昔は人の3倍働いたものだ。」と言われたのだそうだ。人の2倍という言葉はよく聞くが、その方は、「人の3倍」とおっしゃり、4倍5倍という言葉は現実味を感じられないが、3倍という言葉には実体験から重みを感じたそうだ。私も人の3倍の努力が出来るようにしようと思った。

また、天野先生は先生の結婚式でされた、小医、中医、大医についてのお話をされた。結婚式で「病を癒すは小医、人を癒すは中医、国を癒すは大医、せめて中医になれるように頑張りなさい。」と言われたのだそうだ。これは、医師がやるべきことは、手術の腕を磨いて、患者さんの病気を治すだけではなく、患者さんとコミュニケーションを積極的に図り、病気に対する不安を取り除くことも大切な仕事であり、そして、手術が成功すれば終わりではなく、臨床医の論文を書いて学会発表し、より多くの患者さんに貢献することも必要であると、そのときから、強く感じるようになったそうだ。ただ、患者さんを診ているだけでは生涯で人口の約1%の人しか診ることができないのだそうだ、自分が臨床医になる場合にはこのようなことも考えていかないといけないのだと気付かせられた。

日本で指折りの心臓血管外科医である天野教授のもとを訪れ、様々なことを教えていただいたことは、必ず自分の人生の財産になると思う。先生がおっしゃっていたことを何度も考え直し自分の将来へと繋げていきたい

と思う。

夜の二高 OB・OG との交流会では東大の工学部で宇宙工学を学んでいる二高 OB からは高校時代は勉強だけでなく、部活や学校行事も頑張り、自分の興味のある分野を見つけるために本を多く読んでほしいという話をされた。本を多く読んでほしいというのは、天野教授にも言われた事なので、とても大事なのだと思った。日本酒を世界に広めようとしている、東大の二高 OG はとても変わった中高生時代を過ごされたそうだが、努力でここまでやっているというのはとても凄いことであると思う。

この交流会で感じたことは二高の OB・OG は凄いということである。私もこの凄い先輩方のようになれるように頑張らなくてはならない。

八月六日（木）22:05

東大といえば、「赤門」というイメージであった。だが、実際見てみると意外に小さく残念であった。

オープンキャンパスではまず、医学部の展示を数時間見て回った。展示では東大医学部の歴史、特殊な事例、最新の技術、法医学などに関する紹介があった。その後は理学部化学科のツアー形式の見学の予定であったが、多少時間があつたため東大敷地内をうろついてみた。敷地内には元からあつたものか、人工的に植えたものかは分からないが小さな森があつた、大学の敷地内にこんな場所があるのかと驚いていたら、もっと進むと池まであつた。写真部の私にとっては素晴らしい撮影スポットであつた。その後、理学部化学科の見学に行った。そこでは、研究をしている方々にそれぞれ、そこで何を研究しているのかについて教えていただいた。そこでの内容は当然難しく、理解することは容易ではなかったが、説明をしている方が楽しそうに説明をしていたことから、研究というものにも興味を持つことが出来た。その後、東大の学食でカツカレーを食べた。東大の学食では支払いに Suica が使えた。二高の学食でも使えるようにならないだろうか。食後には他に一緒にいた 2 人は法学部の見学に行ったが、私は文学部の見学に行った。文学部では文学部の教授に限らず、東大の教授が出版した本が紹介されており、また現役の東大生と対話できるコーナーがあつた。紹介されていた本では考古学についての本を読んでみた。対話コーナーにも行き。大学で学んでいることや一人暮らしについて聞いてみた。一人暮らしについてはとても自分に役立つアドバイスがあり、行ってみて良かったと感じた。その後、理学部の見学まで一緒にいた二人と合流し東大の物品販売を見てみたら東大鉛筆があつたので買ってみた。私は鉛筆は 2H を使うので HB の鉛筆は用無しであることに新幹線の中で気付いた。明日にはそれはゴミ箱の中にあるかもしれない。早めに赤門前に着いたので、入るときに友達の写真は撮ったが、自分の写真を撮り忘れていたので、リモコンを使って、赤門前で自撮りをした。とても、暑いなかではあつたが、熱中症にならず良かったと思う。

八月七日（金）5:20

この 2 日間はとても充実していた。初日には、数年前に本で読んだ、あの天野先生に会えたのだ。天野先生を訪問したいと希望を出したのは私だったが、内心、会えるとは思っていなかった。私は、まだ医学科志望を決定していないが、医学科を志望し、医師になるとときには天野先生のような素晴らしい先生になれるように頑張りたいと思う。また、午前には日本の大企業へ訪問し、夜には OB・OG の話を聞くなど、良い経験が出来た。2 日目には日本一の大学を見学し、地元の東北大学との比較や今後の学科選択の良い体験となった。